

第 2 回 議 事 概 要

日 時：平成18年 4 月25日（火） 15:00～17:00
場 所：釧路プリンスホテル 3階北斗の間

< 次第 >

1. 開 会
2. 委員・アドバイザー紹介
3. 議 事
 - (1) 第1回委員会の論点整理
 - (2) 地域の現状及び課題について
 - (3) 釧路・根室地域が目指すべき将来像について
 - (4) 討議
 - (5) その他
4. 閉 会

< 配布資料 >

- 資 料 1：第1回委員会論点整理
資 料 2：釧路・根室地域の現状と目指すべき将来像
資 料 3：社会資本のサービス等の状況
資 料 4：P I（パブリック・インボルブメント）について
資 料 5：今後のスケジュールについて
参考資料 1：第1回議事概要
参考資料 2：国土審議会北海道開発分科会基本政策部会関連資料

事務局（釧路開建）

< 開会 >

小磯委員長

第1回では、社会資本整備のあり方ということ念頭に置きながら、この地域の発展に資するための将来像を探り、そのためにどういう地域づくりを目指していくのかという基本的なご議論をいただきました。

今日はそれをふまえた上で、この地域における社会資本整備について、今後につながるものをどう出していくのかというところを少し収束させていきたいということが狙いでございます。

まずは前回の論点・問題点を事務局で整理をしていただいたので、その説明とあわせて関連する参考資料を簡単にご紹介いただき、その後で皆さんからご意見、ご質問をいただきたいと思います。

それでは事務局の方から、資料説明を一括してお願いできますでしょうか。

事務局（釧路開建）

< 資料1、資料2の説明 >

事務局（未来総研）

< 資料3の説明 >

小磯委員長

ありがとうございました。

さて、最初に今回初めて田村委員ご参加をいただきましたので、田村先生の基本的なお考えも含めて、今後のこの地域の目指すべき将来像についてのご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

田村委員

第1回目欠席いたしました田村です。どうぞよろしくお願いいたします。多分こういう話になるのではないかとということで、4つ考えてきました。

1つ目は将来像のつくり方です。現状の延長線上に将来があるのか、将来は新しくつくるもので現状の延長線上になくてもいいのか、これがポイントだと思うのです。私は現状の延長線上に将来をつくる必要はないだろうという意見で、新しい価値観とか住まい方をつくっていくのだという議論を発信したら面白いなという気がいたしました。

2つ目は、キーワードは多様性です。この地域は、海、山、その間に酪農、それで終わりとなりますが、釧路を中心とした製造業や情報拠点、金融など所々にエンジンをつける必要がある。釧路の役割をどう捉えるのか、ある意味では多様性が一つのヒントではないかと思えます。

それから北海道全体をみると、根釧ということで一つの圏域になっていますけれども、道内の6つの圏域の中での特異性はどうなっているのか。小磯先生がよく主張されている道東と道西と違いますか、日高山脈を境に、経済圏が全然違う。道東全体における根釧地域の位置づけというものをどう理解していくか。多様性という意味は、北海道全体の6圏域の中のどういう多様性を持つのかということと、根釧地域の中の多様性をどうやって引き出すか、この2つがあります。

3つ目は、資料の4ページ目から5つ将来像が書いてありますが、ちょっと否定的に申し上げると、北海道中であつくれそうなタイトルになっている。根釧地域の安全・安心で質の高い食産業の構築、見出しは北海道全部の見出しにできる。ちょっと工夫した方がいいのかなという気がしました。そのヒントとして私が考えているのは、海外、東アジアとの関係です。東アジアとの連携で一つ新しい産業を起こすのだということ、新しい時代が

来た時にできるゆとり社会や成熟社会を先取りする、新しい価値観からなる市場づくりと
いうことの2つがあると思うのです。この2つの部分をうまく織り交ぜると、北海道の中
でも珍しいといわれるし、全国的にも「やはり釧路だな」と言われるような気がしていま
す。

最後ですけれども、大学や研究所あるいは金融がどのように地域にあって、ネットワ
ークしていったら使えるのだろうというところをちょっと悩んでいるのです。将来像を支
える仕組みづくりというところで、若い人の価値観で、大学、研究機関、金融機関等をう
まくネットワークさせる。人が集まってくるようなネットワークがあるとか、例えばそう
いう釧路地域ならではの面白さ、手づくりの面白さも表に出せないかなと思います。

小磯委員長

ありがとうございます。あらためてまた気がつくことあれば、ご発言いただければと
思います。

さて、これ以降は少しご自由に皆さまからご発言をいただければと思いますが、いかが
でしょうか。石橋さんいかがでしょうか。

石橋委員

金融の話が出ましたが、いみじくも農業金融は農協だけではなくて、既に地元の信金も
始めています。それを既に使っている酪農家がでてきています。お互いにその業界の中
に内向きに考えるのではなくて、地域に目を向ける必要がある。地域の農協、漁協も含めた
人達が、地域に元気をつけるために、そういうことをきちんとやれるようなシステムづく
りをどうするのがこれからの課題だと思うのです。

それから、自然だけが売りかという私もそうではないと思っています。むしろこの地
域は自然も大事にしながらきちんと維持しながら、この地域の独特の文化をつくる、そ
ういう視点が私は必要だと思います。それが観光にも結びついていくでしょうし、その文化
の付加価値を付けた地域の産品をつくっていくということもできると思うのです。

私が一番気になっているのは日本の休日のあり方です。国民の祝日がたくさんありますが
、観光客は祝日にどっと来ていなくなってしまう。一年間通して自由に休日をとること
ができるような休日のつくり方、これが本当は大事なのではないかなと思います。ゆっく
り休日を楽しむことができるようなあり方をつくっていくというのが、私は大きな問題で
はないかなと思っています。

小磯委員長

なかなか大胆なご提案いただきました。さていかがでしょうか。気が付くところをいた
だければと思いますが、辻中さんいかがでしょうか。

辻中委員

文化という話がでましたけれども、道路づくりなどもつくったときが一番良くて、その
後だんだん補修、補修でつぎはぎになっていくのではなくて、時間が経つごとにその価値
が高まっていくような道路づくりができないのかなと、そういうようなことをちらっと思
っていました。道路というのは経済の大きな動脈でありますけれども、それと同時に文化
の道だというようなこともあると思うのです。そういう点では、どこに行っても同じガー
ドレール、防雪柵があったりというようなのではなく、例えばこの地域では全部防雪林帯
に変えてみるなど、そういうことができないのかなと。

そうすると道路の表情が出てくるというようなことになるのではないかなと、具体的に
はどういうような案があるのかはありませんけれども、そうすると観光の方もこの地域の
大きな特色がランドとしてできるのではないかなというようなことを思いました。

小磯委員長

ありがとうございました。これからの社会資本整備のあり方として、時間の経過の中で価値の出る社会資本整備という大変大事な問題提起だと思います。一つご紹介したい話があります。台湾で新幹線が整備されているのですが、実は技術協力した国によって、デザインが違います。社会資本整備は、画一的にやるものでなくてもいいのだなということに逆に勉強させられた経験があります。

社会資本整備のあり方には色々な方法が実はあるのではないかなと、この地域で率先してできれば面白いのではないかなと思います。

すみません大島先生、お願いします。

大島委員

今おっしゃったことの問題は、いい道路の周りに住んでいる人や通る人が素晴らしいと思うこと、すなわち満足度を道路整備の中の便益として計量的に評価するようなシステムがないので、同じような道路をつくってしまうのです。

この道路は特別に誰もが喜ぶ、あるいは素晴らしく平らである、色々な並木があるなど、周りの人を含めた満足度というものを計量的に評価して、もっと投資の評価の中に入れて、実際に工事する時に、その価値を積算するようなシステムをつくれれば地域特有のものができてくる。

小磯委員長

ありがとうございました。近藤さんどうでしょうか。

近藤委員

一つだけ気になったことがあるのですが、これを僕達住民が読んだ時に、これから先10年後、20年後にこの地域がとてものわくわくするような地域で夢があって、未来があって、非常に素晴らしい地域だとみえるかどうか。なかなかここからは読み取れないのかなと思います。

我々はこれから先も、仕事をしていったり、生き続けなくてはいけないのですから、ここに継続的に住みたいと思えるような地域になることが、地域住民にとっては一番重要なことです。そういう面では夢に近いような部分でもいいと思うので、他の地域とは全く違ったこういう特異性のある、非常に素晴らしい地域になるのだと、そういう夢になるような部分をこの中に書き込んでいただけると、皆さんのモチベーションもあがって行って、いい地域になっていくのではないかなということ、少し読みながら感じておりました。

小磯委員長

ありがとうございました。宮田さんどうでしょうか。

宮田委員

以前、雑誌で廃れゆくまち釧路、伸びゆくまち常呂というのが出ておりました。何かといいますと、200カイリ問題が起こったときに、漁業補償をもらってやっていけたのでこの地域は何もしなかった。しかし常呂はその時に、ホタテの養殖を考えて、今やそれを根付かせているということです。大事なものは地域にある題材で、できることをやるということだと思っております。

カニの養殖場をつくるとか、徹底的に甲殻類の付加価値の高いものにチャレンジするとか、あるいはこの地域はコンブがたくさんとれているので、美味しいウニ、カニが生息しているのですが、徹底的にそれを丘の上でできないのかということです。農業においても同じようなテーマで、高付加価値の農業にチャレンジできないか。未来の農場のようなものを、他の地域にない高品質で、安全なものを徹底的につくっていく。それを地元にある企業を使って、人手をかけないで加工する。

地元にある優れた企業、力を使って行って、クラスターを戦略的につくっていくというプロセスが絶対に必要なのだと思います。地域の金融やビジネス経験の豊かな地域のシニア、そういう人の力を借りて、マーケティングや販路拡大だとか、あるいは商品の付加価値付けについて、戦略的に農業、漁業、観光を含めてつくっていく。

例えば先ほどの道路の話では、カナダのビクトリアではガードレールに木を使っているのですが、耐久性のある木、腐らなくて強度のあるような木をつくっている会社がこの地域にあります。先ほどの防雪柵もそうだと思います。地域内で作り、戦略的にその技術をどんどん伸ばしていく。インフラ整備にビジネスをのせていく仕組み、インフラプラスハンズオンしていく仕組みによって、地域内の新しい付加価値をつくる企業をどんどんつくる。

もう一つ僕が感じるのは、帯広の製菓業者が釧路の駅前や北大通りに何軒かありますが、何でこの釧路でできないかということです。釧路に観光客が来て、釧路で何か買っていくお土産ありますかといった時に、そういう店を紹介する。

そういったものがつくれる可能性はあるのですが、今までのプロセスの中で欠如している。この地域にある原材料から商品をつくり、付加価値を生んでいく、例えばお菓子のプロセスは一つの成功事例にしていくとか、そういうことも含め、地域で議論して出していく必要があると感じました。

小磯委員長

ありがとうございました。非常に大事なことで、足元をみつめるということが、今までできていたのかどうか。

地域の中でしっかりと循環的視点で取り組んでいる企業経営の芽が出てきています。これからの社会資本整備は、地元でパイオニアとなって開発したものを組み込んでいくという姿勢が非常に大事だと思います。釧路、根室地域の率先事例として、そういう方向はこの委員会における一つのまとめの流れとして、是非位置づけていただければと思います。

さて栗林さんどうでしょうか。

栗林委員

やはりこの地域というのは、自然と共生して生きていくべきだなと思っています。耳障りのいい言葉ではなくて、うまく演出して自然をみせながら、人間が入っていくところをとことんみせていく、みせたいところをどんどんみせていく、陰では色々な技術を使って、本当に自然をみせるのではなくて、自然らしさをみせる。というように、いやらしく自然と共生していった方がいいのだらうなということを思っております。

この前、韓国の地元向けのカジノというのをみてきました。カジノは今どこでも目標になっているのですが、カジノで働いている人のための専門の学校というのは、日本のどこにもなくて、専門のサービスを教えてくれる学校、専門学校というのを特色として、釧路でつくってみてはどうだろうということとか、色々なアイデアがあります。

道東で同じ悩みを抱えている地域がある中で、北海道の中でも道東でしかできないというものをみつけるべきではないかと思ったり、他には真似できないことをやりたいなということも思っています。

小磯委員長

ありがとうございました。また後で気がついたところお話いただければと思います。出村先生今日は途中参加ということで、今までの皆さま方のご意見をお聞きになられた上で、感想でもあればお聞かせいただければと思います。

出村委員

根釧地域は、地域のあり方の夢を描くという時に広すぎて、それがマイナスであるけれども、逆に非常にプラスの面も持っている。海がありそれから酪農地帯があり、それから

何よりも国立公園という観光地がある。地域資源が非常に豊富だということです。その豊富な地域資源をどういったかたちで結びつけていくのか。それは、小さい単位で考えるということなのです。

何か大きな産業があれば、そういうものを結びつけて大きな何かをやるということではなくて、漁業や農業と観光とを結びつけるスポットと言いましょか、小さいところでそのものを集積する。

もう一つ、特に農業や環境を考える場合は一つの河川の流域の中で、川上、川下というように考える。私は北海道の中で流域という概念は何かなという時に、道路網だと思おうのです。北海道の道路網というのはよく発達していますし、大きな道路網がありますから、ちょっと車を走らせればすぐ大きな道路にあたる。

道路網という大きな動脈に、資源を結びつけて、大きな単位ではなく、むしろ小さな単位でできる可能性がある。小さい点をたくさんつくり、結びつけることで広いエリアをカバーできるのではないかと思います。

小磯委員長

ありがとうございました。栗林さんお願いします。

栗林委員

僕が是非入れて欲しいなということは、遊び心を入れたいということです。例えば、観光をする場所は色々あるのですけれども、その間が非常に広すぎて、その場所をみるために丸一日かけるとか、一日かけて二つしかみることができないとか、そういう部分があります。その合間、合間に何らかのかたちの、遊び心を入れることによって、もっともっと人を遊ばせることができるのじゃないかなというのは、本当に身近な考え方で、今でもすぐできることかなと思います。

知床に行くくと道路から知床旅情が流れるですとか、そういう遊びはもっともっと色々なところで入れていいのじゃないかなと思います。費用をかけずにつくることができる観光資源、そういうのをもっともっとつukって、人を楽しませる。そういう観光もこの中に入れてもいいのかなと思います。

小磯委員長

ありがとうございました。大島先生お願いします。

大島委員

この地域の発展の特性から、人口の重心が圏域の最も南にありますから、非常に偏った条件にあると思っております。

例えば、地震が起きた時にいつも500億円の被害がでます。東方沖の時も、釧路沖の時も500億円の被害がありました。それについては、現状復旧ですからそのぐらいの地震が起きると、必ずまたそうなるということです。

社会基盤整備の時には、もう少し広域的な整備をしないと、どうしても釧路地域に偏っているという感じがいたします。

これに関しまして、2番目のポイントが駅の連続立交です。北見や帯広では連続立交があります。連続立体交差で土地がつながることによる長期的な効果には、普通の事業評価、便益評価では計り知れない効果があって、長い地域の発展の中では非常に効果があると思います。賛否両論色々あるのしょうけれども、私自身はもう一度考えてみる必要があるのではないかと、完全に連続立交でもなくても駅の前の幹線は少なくともつき抜けられるような交通体系にしないと、南と北の長期的なつながりという点では、大きな問題になるのではないかと思います。

3番目は、例えば北見はタマネギの生産が日本一で、タマネギの健康食品など様々な取り組みを大学中心で行っていますが、この地域は水産資源一つとっても、トレーサビリティ

ィによる高付加価値化など、もっと付加価値化を高めるような取り組みができると思います。

その時に足りないのは、付加価値を高めるための仕組み、組織です。例えば、魚の皮は医薬品の材料になるので、医療に応用するとか、健康食品に応用するとか、そういった産業と連携するような取り組みが大きな産業に育つ余地は十分にある。素材がある訳ですから、そういった取り組みをする必要があるのではないかとということです。

最後に観光の点ですけれども、リピーターの数調べていないように思います。例えばアメリカのコロラドにアスペンというところがあります。山の中にある観光の村です。

ここではイベントや大きな学会、国際会議を誘致しています。田舎ですけれども、周りにはホーストレッキングがあったり、ラフティングがあったりして、先ほどからおっしゃっているような、様々な観光で楽しませる。ここにはマネージメントする組織があって、そこで全部コントロールして、学会とリンクして、大きなイベントなりを誘致するようなことをやっております。

そういう仕組みをつくるようにして、もっと高度なリピーターを増やす、高度に利用してリピーターを増やすといくらでもイメージができると思います。そういったところを取り組んでいただきたいとその点申し上げます。

小磯委員長

ありがとうございました。少し幅広い論点でお話をいただきました。

今日は行木先生がご欠席なのですが、事前にご意見をいただいておりますので、ほぼ一巡したところで、事務局の方からご紹介をお願いします。

事務局（未来総研）

<行木委員参考意見の説明>

小磯委員長

ありがとうございました。行木先生はお医者さまでいらっしゃるのですけれども、本当に地域の問題に対して幅広い関心と提案力をもっていらっしゃる、あらためて感心をいたしました。

あといかがでしょうか。石橋さんどうでしょうか、少し今回の将来像に向けて幅広いお立場から。

石橋委員

町村合併が一つの区切りを迎えまして、新たな方向性に向かうのだと思いますが、町村合併がいいのか、緩やかな連携をしながら地域行政をきちんとつくっていくというやり方がいいのか。

河川の流域という言い方がありますが、釧路・根室圏は知床の連峰から浦幌の大地に囲まれた一つの地域で、地域特性を一つのものとして考えた時の色々な行政のあり方、そのなかでそれぞれの町村が独自にやりながら連携してこの地域運営をするという発想を私はもっていくべきではないかと思うのです。

それと、私は農業の分野で仕事をしているのですけれども、ある意味でこの地域の農協という組織は、地域づくり、農村の地域づくりに責任を持つ立場にあるわけです。CSR、企業責任と最近言われていますけれども、ある意味では農協が農村社会をつくる地域責任を持っているわけです。農協が地域づくりのために行政と一緒に積極的に関わりを持つということが、これからの地域づくりには一番大事なのではないかと思うのです。農協が持っている資金力、ある程度あります、それをどうやって活かして地域づくりのために使っていくかということをやっていかなければならない。そういう時代になったと思います。

農協は農業者の生活と営農を守るのは使命でありますけれども、同時に地域づくりの役

割も負わされているというふうを考えて行動していかなければならないと、そんな時代に入ったなと思います。

小磯委員長

ありがとうございました。先ほどから地域の金融という問題がでておりますが、これからの地域の政策議論の中で、やはり地域の金融システムというのは一つの鍵だと思います。残念ながら、これは北海道でも道東でもそうですけれども、地元で集めた資金が地域に還元されているかという、そうではない。半分近いお金が外に流れています。これは悲しい現実であって、色々な事情がありますが、地域に再び投資するだけの基盤、受け皿がない。それを少しでも高めていくということがあります。これは社会資本整備とか、地域のこれからの産業論を考えていく中で、欠かせない問題で、国だけの金融政策に任せる時代なのかと、循環型の地域経済構造を金融の分野も含めて議論していくとよいことがあってもいいんじゃないかなと思います。

それからもう一点、石橋さんから市町村合併の新たな動きについてのお話があったのですが、おっしゃられた問題意識は私も全く同じです。合併のための方法論をどうするかという、そういう視点の議論であってはいけません。ただこれだけ厳しい地方財政環境の下で、合併という政策的テーマを与えられた中では目を背ける訳にはいかないとします。

そこで議論すべきは何かといいますと、どういう地域づくりをその地域は目指していくのかという議論の中で、方法論として合併という選択肢が相応しいのか、あるいは広域連携でそれが到達できるのか。そういうきちとした議論を目を背けることなくしっかりやっていかないと、それぞれの地域の次の世代に対して禍根を残すと思います。これだけ厳しい財政環境の下で、今後の国の政策に対してきちり応えられるような状況にしておこうというのが私の考え方で、今の審議会議論の中で進めているということをお話しておきたいと思います。

先ほどの行木先生のペーパーにもありますように、これからの時代の基礎的自治体の担うべき行政サービスとして何が地域にとって大事かといいますと、医療、福祉等も含めたサービスのあり方が必要ではないかなと、個人的には思っています。北海道の市町村合併の審議会の一つの長期の提案というかたちで、市町村を21に区分するという考え方も提案しました。将来どういう地域を目指していくのか、そのために市町村が担うべき行政サービスは何なのかという、その議論が一番大事なのではないかなということで、今合併に向けて議論が進んでいるということを紹介させていただきました。

さてこの委員会には、アドバイザーのメンバーがおりますので、アドバイザーの方々からもご意見なり感想をいただければと思っています。今日は標津町の方が来ておられますけれども、地域HACC Pとか、エコツーリズムの観光、そういう地域資源を活かした取り組みをやっておられる地域でもあります。食の安全の面、地域資源を活かした観光ということを含めて今まで取り組んでこられた立場で、感想も含めてどんな考え方をもっておられるのかお聞かせ願えればと思います。

標津町アドバイザー

地域HACC Pやエコツーリズムは、あくまでも地域で生きていくために産業をどうやっていくかということから発生したことです。

サケ、ホタテを中心にどうやって消費者と向きあっていくかということの行きつく先が、この安全・安心の具体的な実践ということになりました。

これを消費者にどうやってみせるかということから、エコツーリズムということになりまして、産業を観光化するということが結果的に、観光が産業になってきたということにつながっております。

地域づくりは本当に難しいですけれども、願わくは夢、わくわくするような楽しい地域にしていかなければならないというのが我々の目標でありますし、何より都会と田舎は一体で、我々ががんばっているから都会があり、都会がまた田舎に対して健康、癒し、食

料というものを求め、供給しあえるという関係を築いていくようにしたいと考えております。

小磯委員長

地元の資源に対して安全・安心という食に対する付加価値を自分達の地域で、自力でなおかつ自分たちのできる範囲で取り組んでいこうという地域HACCPを今までやってこられた手応えをお聞かせいただきたいのですが。

標津町アドバイザー

消費者と向き合う中で、万一事故があれば地域の産業がつぶれますので、これは地域の産業を守るということで始まったことなのですが、サケ、ホタテ、イクラで我々の製品が東京都のトレーサビリティ認定をとれました。今東京都のトレーサビリティ認定を受けて、シールを貼れるのはうちだけです。

また、本年2月に農水省のオーライニッポン大賞をエコツーリズムが受けました。

やっている人間は大変なのですが、漁業者の方も自分たちのやった成果が、こんなかたちで現れるのだなというふうにして励みになりまして、一步一步次の段階に上がっていきけるのかなと、節目節目で励みをいただくというところも、我々がついているなと思うのですが。

小磯委員長

恵まれた観光資源がなくても、やる気と自分たちのがんばりがあれば、地域HACCPという地域のイメージアップや付加価値を高めていくことによって、新しいまちづくりが実はできるのだということ、この地域の足元にもそういう事例があるということで、委員の皆さん方にもお話を聞いていただきました。はい、出村先生どうぞ。

出村委員

エコツーリズム、グリーンツーリズムなど従来の観光とは違うかたちでのツーリズムがあります。北大も今年、来年に向けて、大学院レベルの観光学科、観光大学院をつくらうというのですが、その時に医学関係からも自分達も入れて欲しいといっています。

ヘルスツーリズムだとか、ツーリズムと他の活動を結びつける。例えばアニマルウェルフェア、そういうものとツーリズムを結びつけると、色々な地域で、できるのではないかなと。この根釧地域ではツーリズムの見本市のようにツーリズムがある。そういう取り組みも必要なのではないのかなという感想を持ちました。

小磯委員長

ありがとうございます。田村先生どうですか。前回の欠席を含めて2回発言をいただければと。

田村委員

札幌からすごく遠いということは、室蘭からみると羨ましい。札幌に依存するということが、この地域の人には全くないのです。そここのところの文化を認めて、うまく煽ってあげばいいのかなというのが1つ目。これから住む人、外から連れてくる人、これをうまくマーケティングの中に入れてあげる、仲間に入れてあげると、すごくいいのではないかなという気がします。

我々は海外に行って面白いと思う。行けば行くほど面白いものが出てくる。その奥行きも全部含めて、そのアイデアをこの地域で東南アジアの人々のためにやってみる。そうすると一挙に花開くのではないかなと私は思います。以上です。

小磯委員長

ありがとうございました。

整理はできないのですが、この地域らしさを際立たせた中で、そこに夢を持ちながら、楽しみを持ちながら、将来像づくりを進めていったらどうだろうということでした。

地元のいい取り組みがあるのでそれをどうつなげていくか、そこに具体策につながっていく大きなヒントがあるのではないかと。あらためて地域のもっている取り組みなり、夢なりをうまく展開していくような将来像づくりに向けていただくというのが、皆さん方のお気持ちではないかなと聞かせていただきました。

私はこの地域の特徴は異質性だと思います。私は今まで日本列島4つの島全部で生活してきましたけれども、ここはやはり何というかパスポートのいらぬ日本語の通じる外国だと感じます。そういうものをしっかりメッセージとして出すことによって、まだまだ発展性があるのではないかなと思います。

最後に一点お願いがあります。域外・域内市場のバランスが取れた産業活性化方策の中で、この釧路・根室の新しい力のある経済力を益々強くしていくのだというところに、食産業とか、観光産業とか、そういうものを位置づけながら、今後の将来像に向けてのシナリオづくり、スキームづくりをして欲しいなと思います。

地域の自立というのは、収支のバランスです。これからは公共投資や農業用補助金でバランスをとることが段々難しくなってきます。そうなったときに製造業ですぐにはなかなか難しい。そういう時の移出産業としての観光業の役割が高いと思います。しかも、地元の資源を使ってその産業を成り立たせることができる。自然環境資源を有効に活用しながら、食産業と連携することがこの地域では展開できるように思います。それらを変えていくなかでインフラ整備がどうあるべきかということは今後検討していただければいいのではないかと考えております。

事務局（釧路開建）

< 資料4の説明 >

事務局（釧路開建）

< 資料5の説明 >

小磯委員長

第2回の委員会を終了したいと思います。今日は皆さんどうもありがとうございました。

< 第2回釧路根地域将来像検討委員会終了 >